

## B-47 被服構成時，着用時に生じる被服材料の変形について（第2報）

—織物の力学的異方性と被服構成時，着用時に生じる織物の変形との関係—

金蘭短大 ○伊藤 紀子  
奈良女大 山田 洋子  
丹羽 雅子  
古里 孝吉

1. 被服構成時，着用時に生じる織物の変形量が織物の力学的異方性と密接な関係を持つことは言うまでもなく各種の地の目で製作した衣服を着用した時に感じる衣服の追従性や衣服圧の多少また繰返し着用による型くずれなどからもうなずける。

そこで本報では，織物の伸長，曲げの力学的異方性を測定し，前報で得た結果と比較検討して被服構成時，着用時に生じる織物の変形と織物の力学的異方性との関係をとらえる。

2. 試料は，スカート，スラックスを製作した同一織物を用い，たて方向を $0^\circ$ として $15^\circ$ 間隔に試料を採取して，伸長，曲げの力学的異方性を測定する。これらの測定値と前報で求めた被服の変形量との関係について考察する。

3. 織物の力学的異方性，なかでも伸長特性が被服の構成時，着用時の変形および着用感に大きく関係することが認められた。さらにこれらの変形量から各種の地の目を用いて被服を構成する際，それぞれの被服に与えるゆるみの分量を予測することができる。